



@心の支援課

長野県教育委員会事務局 心の支援課
長野市大字南長野字幅下692-2
電話番号：026-235-7436

特集

校内教育支援センターの運用のために

校内教育支援センターは、登校はできるものの、教室に入ることが難しい子どもを対象とした場所です。安心して過ごすことができる居場所機能、自分のペースで学ぶことができる学習機能、教員等に自分の思いや気持ちを相談できる相談機能の3つを一体的に備えた学校内の支援拠点として、子どもの「学びの継続の保障」と「安心できる学校とのつながりの確保」を実現していくことが期待されています。

本紙では、各学校に設置されている校内教育支援センターで行われている、運営面や設備面での工夫や、そこで重視されている視点等についてご紹介いたします。



▶ 運営面での工夫

<小中共通>

- 校内教育支援センターの運用について、配置支援員や担当職員と擦り合わせ、子どもへの支援体制について、年度当初に保護者へ丁寧に伝えるようにしている。
- 校内支援センターを利用する場合には、保護者と本人との面談の中で、どのように過ごしたいのか等の思いや願いを聞いた上で、一定期間の見通しをもちながら利用してもらうようにしている。
- コミュニティスクールの方や地域の方に支援や活動に協力していただく場面をつくっている。

<小学校の例>

- 職員間で分担することで、子どもだけで過ごすことがないようにしている。保護者が付き添える時間帯には一緒にいていただく場合もある。
- 支援員の退勤時間以降は管理職が対応している。
- 時間割に担当職員をシフトとして組み込んで、見守りの仕組みづくりを進めている。

<中学校の例>

- 一日2時間は教科担任が授業を実施できるよう、時間割のスライドに教科の職員を組み込んでいる。
- 学級の授業へオンライン参加できる場所にもなるよう、学習環境を整えている。
- 校長から、認め励ます声掛けを行うことの大切さを職員へ伝えている。観点別評価や5段階評定にも反映できる部分がないか検討を進めている。
- 進路情報などもわかりやすく掲示している。
- 小学校と連携し、不登校傾向にある6年生を対象とした案内や見学体験などを実施している。

▶ 居場所機能の充実 ～子どもの安心を助ける様々なもの～



多くの校内教育支援センターは、ジグソーパズル、カードゲーム、ぬいぐるみやアイロンビーズなど、子どもが何気なく触れられる教材や、取り組める素材などが用意されています。共通しているのは、自由に扱える素材と、途中でやめてもまた続けられる素材、達成感が得られるような素材です。また、並んで作業するなど、自然とコミュニケーションが生まれるような素材も用意されています。

● 視点

- 自由度の高いビーズや、手順が明確なパズルなどをそろえ、触る・並べる・つまむなどの動作で落ち着けるよう、その時の状態に応じた過ごし方を自分で選択できるようにしていく
- 途中でやめたり、再開したり、少しの作業でも“できた”が得られる教材を用意しておく
- 子どもの好みや年齢に合う色やキャラクター、楽しそうに見えるデザインを取り入れ、自然と手に取りたくなる環境を整えていく

▶ 学習機能の充実 ～自分のペースで、学びたいように学べるように～



校内教育支援センターでの学びの場は多様です。教科書等を活用した教科学習や、興味・関心に基づいた探究的な学びなど、滞在する子どもの希望に合わせて、柔軟な工夫がなされています。大部屋の中心に小さな空間を区画し、1日2時間は先生が教科指導に入る工夫をしたり、パーテーションなどで個別に集中して学習できる環境を整えています。なお、学習の場所は整備しつつも、子どもが取り組みやすい場所や方法を柔軟に実現していくことが、学習環境の整備ではとても重要です。

● 視点

- 固定的な枠組みではなく、子どもの状態や希望に応じて柔軟に調整していく
- 子どもの自己決定を尊重し、様々な選択肢を提示する
- 登校が難しい状況でも、子どもは「学びたい」という気持ちを内にもっているということを大切にする
- 授業参加、個別課題、オンライン学習、興味関心に基づく活動など、あらゆる学びがその子の成長にとって重要なことであるということを大切にいく

▶ 相談機能の充実 ～安心できて、相談できる場所として～

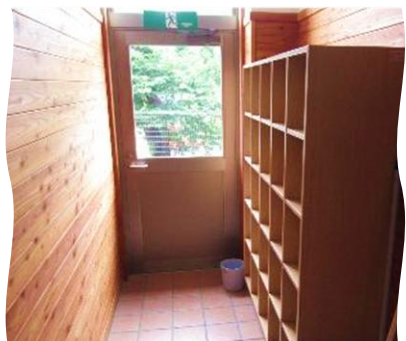


室内には、ソファや丸テーブルが配置され、和やかで安心できる雰囲気がつくられています。また、ぬいぐるみやパズルなどを用意したり、横になって過ごせるような工夫がなされています。さらに、相談員の先生などに相談をしたり、読書やお絵描き、制作活動、軽い運動など、子どもたちの幅広い活動が保障されるような環境づくりが進められています。教室を複数確保できない場合でも、旧パソコン室などをパーティションなどで区切って、テーブルやクッションを置くなどして、落ち着いて過ごせる環境を整えています。

● 視点

- ・ 子どもが「ここなら大丈夫」と感じられる空間を整えていく。
- ・ 「学び」や「人」とつなぐために、子どもの心理的な安全性が確保されているかを見取っていく
- ・ 柔らかい素材の家具やクッションを配置し、居心地のよい空間づくりを進めていく
- ・ 半透明パーティションなどを活用し、オープンな中にもプライベート感を演出できるようにしていく

▶ 設備面での工夫 ～校舎へ入るまでの抵抗感を取り除くために～



他の子どもとの動線に配慮し、通常の昇降口とは異なる出入口を設けるなどの工夫をしている学校もあります。また、登校時間が分かっている場合には、職員が玄関付近まで迎えに出るなど、きめ細やかな対応が行われています。特別な動線や出入口の整備は、少しでも登校がしやすくなる工夫のひとつですが、一人ひとりの状況や気持ちを丁寧に確認しながら、その子にあった支援の在り方を検討していくことが重要です。

● 視点

- ・ 一人一人の希望や不安を把握し、子ども自身が選択できる状況を整える
- ・ 「来てくれてうれしい」という肯定的な声掛けなど、受容の姿勢を大切にしていける
- ・ 必要に応じて、校舎に入る前にクールダウンの時間・スペースを用意し、子どもの気持ちと丁寧に向き合っていく

▶ 支援の工夫 ～子どもと一緒に考えながら～



1.月曆、週曆、日報の掲示



2. 個別の取組履歴を蓄積して様子を把握



3. 読解教材で得意なイラストを活かす



4. 進路相談を掲示して個別相談



5. 好きなことに取組んだ成果を認める



6. 各教室の時間割



7. お茶をたてて心落ち着ける時間に

小学校・中学校ともに、校内の各教室の時間割や、週予定などが掲示されていました。とくに学年で行事などがある場合には、関連した資料や予定表などが掲示されていました。学校での一日の流れが見渡せるような工夫もみられました。また、子どもの取組みの様子や課程が見えるように、ファイルやノートを活用して取り組んだ内容が、職員間で共有できるようにしている学校もありました。

多くの校内教育支援センターでは、限られた環境の中で子ども一人ひとりに寄り添うための細やかな工夫がなされ、学校全体で支えようとする姿勢がみられました。

関係職員の連携や保護者との対話、個々の思いを丁寧に受け止めながら支援の形を柔軟に変えていく日々の取り組みは、子どもたちの歩みに静かに寄り添い、安心して過ごせる居場所づくりの実現に貢献しています。

さまざまな課題に真摯に向き合いながら、子どもたちのためにできることを一つずつ積み重ねていく学校の取り組みは、大きな意味を持っています。これからの一層の工夫が、子どもたちの確かな成長へつながっていくことを願っています。

